

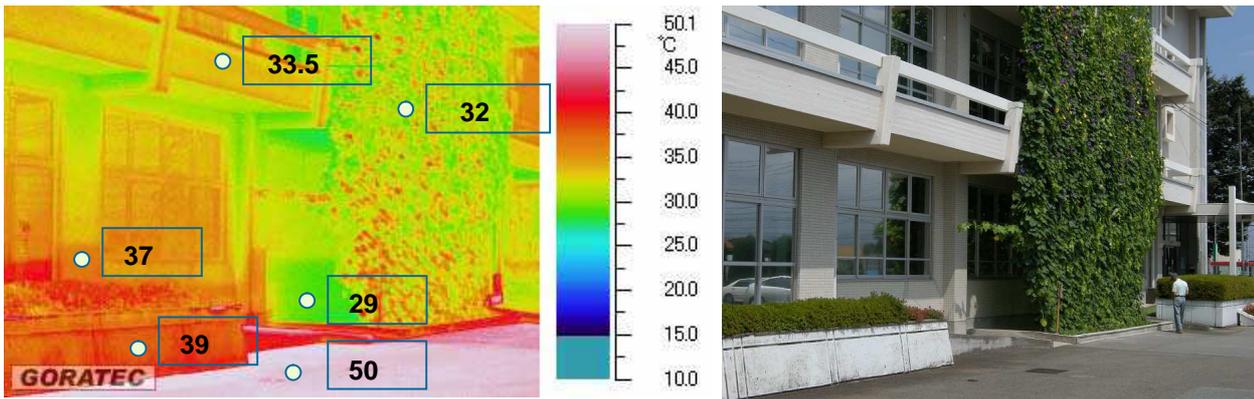
山梨県内の緑のカーテンの調査と健康面への効果についての検討

山梨県環境科学研究所 生気象学研究室 研究員 宇野 忠

屋外では緑のカーテンにより気温、蓄熱ともに抑えられる

- ・ 緑のカーテンの影部分では同様な日向部分に比べ 8 温度が低い状態である
- ・ 建物への蓄熱が抑えられている。

【サーモビューアーによる表面温度分布の撮影】



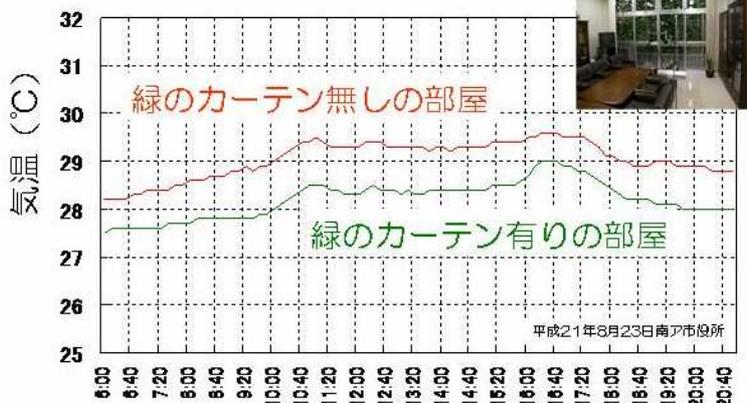
建物への蓄熱が抑えられることが、夜間の室温上昇の抑制に効果的。

寝室の窓辺などに育成することにより、熱帯夜における不眠等の健康問題の解決や夜間の空調使用の削減につながる。

窓を締め切った場合は、緑のカーテンのある室内の温度は昼夜とも低くなる。

エアコンを使用する場合には、厚い緑のカーテンが省エネに効果は高い。

【閉め切った部屋の気温の違い】



- ・ 緑のカーテン有りの部屋では気温が下がっている。
- ・ 夜間の気温も低くなっている。

窓を開放する場合は、風をうまく導入することにより室内の快適感は上昇。

エアコンを使用しない場合には、緑のカーテンの葉の間引きをなどにより、風をうまく利用することが重要。